

冠山金ダマ

歴史と伝統の
先に立つ



冠山会会長
奥田 秀紀

令和六年度の冠山会総会において、新たな役員体制が承認され、小林前会長の後任として会長に就任いたしました昭和四十九年卒業の奥田秀紀でございます。これから役員各位とともに冠山会並びに母校のさらなる発展を目指して精一杯尽力してまいりますので、会員の皆様におかれましては、冠山会の活動により一層のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

学びの環境を支援する

同窓会活動の目的のひとつは、母校の教育活動を援助し、生徒たちの学びの環境を支援することとあります。学びの環境とは、学習環境は勿論のこと、かけがえのない仲間との出会い、切磋

琢磨し高め合う生徒相互の繋が
り、また、物理的な教育環境の
整備などであります。

また、同窓会活動のもうひとつの目的は、年代を超えた同窓生相互の交流親睦に寄与することであります。明治二十六年の旧制中学創設以来、学制改革、再編統合を経て、昨年度、郡山高専学校は創立百三十周年の佳節を迎えました。永きにわたり歴史と伝統を継承し、今の素晴らしい校風が出来上がりました。

この間、冠山会会員の皆様方をはじめ、育友会、地域の方々、また、諸先生方など、多くの方々の温かい心に支えられてまいりました。ここに改めて厚く御礼申し上げます。学びを支援するに当たっては、生徒の皆さんが冠山会に望まれること、期待されることなどにも触れながら、実効性ある活動となるよう努めていきたいと思っております。

未来を作れる人に

今 私たちの想像をはるかに超えるスピードで社会は変化し、豊かさとは何か、幸せな生き方とは何か、何が問われる時代を迎えています。現役世代が今の八割に減少す

第44号

発行所
奈良県立郡山高等学校
冠 山 会
題 字
中 村 象 谷
編集責任者
冠山会事務局
発行部数 32,000部

冠山会であることの矜持

るとされる二十四十年には、これまでの当たり前といったことは通用しなくなることさえ危惧されています。しかし一步、世界に目を向ければ、情勢の変化に俊敏に対応し、新しい生き方に踏み切った人たちが多く存在します。こうした状況の中、豊かさに溢れ、一人一人の笑顔が絶えない社会が持続的に発展していくためには、教育的果たすべき役割は一層大きくなっています。さらに近年では、「コミュニケーション能力の育成を求めめる社会的要請が高まり、学校教育においても、ICTの普及を背景に学習形態にも変化が生じています。次代を担う皆さんには、様々な形で学びなどを通して、主体的に学ぶ力や対人関係力、自己肯定感の向上につなげ、母校から「未来を作れる人」になつてもらいたい」と願うものであります。

これまで、多数の有為なる人材を輩出してきた冠山会は、同窓会の情報発信として、現在の全会員約三万二千人に「冠山会だより」を発行しています。これはすべて会員各位からの貴重なご協力によるものであり、会報の発行のみな

らず、母校支援として、全国・近畿大会に出場する部活動への援助や、短期海外留学への支援、さらに、植木剪定や校庭整備の支援などに幅広く活用させていただいています。

現在は情報伝達的手段・方法も多様化し、その方途についても幅広い対応が求められています。今後の冠山会運営に当たり、より多くの会員各位のご支援をお願いしますとともに、会員の皆様同士がいつでもどこにあっても年代を超えた繋がりがりやまとまりを感じ、誇りに思っていただけの会であり続けたいと思っています。

凛とした美しい母校
さて、令和八年の大河ドラマの



「母校に新風を」

[illegible]

**令和7年度の冠山会総会は
ホテル日航奈良で開催します**

令和7年度は昭和51年卒業の皆さんとともに左記の日程で開催する予定です。

令和7年5月11日（日曜日）

午前10時30分	11時00分	12時30分
受付	総会行事	懇親会

舞台となる郡山城、母校正門前に広がる郡山城跡一帯や城内高校の校地跡地は西公園と二帯となり、魅力ある公園へと生まれ変わろうとしています。その中に立つ郡高は、好環境に囲まれた凜とした美しい学校です。この環境の下で、郡高生は勉学、部活動、進学にと充実した日々を過ごしてくれています。自分らしく輝く三年間であるために冠山会から最高の応援をしていきたいと思えます。

最後になりましたが、会員各位のご健勝並びに冠山会のさらなる発展、母校の輝かしい躍進を祈念するとともに、変わりますねご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。心よりお願い申し上げます。

母校の発展を願う



前会長 小林 勢治

去る五月十二日に開催された総会におきまして本年度の役員改選案が承認され、新会長に奥田秀紀様を迎えて新たな冠山会の役員体制がスタートいたしました。

これに伴って三期六年間務めさせていただいた冠山会長の職を退くことになった次第です。

この間、多くの役員の皆様ならびに会員諸兄諸姉のご理解とご協力に助けられ、何とかその大任を果たすことができました。在任中の様々な場面で支えていただいた多くの皆様に心より感謝の意を表したいと存じます。本当に有難うございました。

振り返りますと、前会長の橋本様から会長職を引き継いだ折には本会運営の幾つかの課題も同時に引き継がせていただき、それらの課題の一つひとつを解決していく六年間であったように思います。

この間の取組を思い返せば、会則・規約などの点検や年間事業の見直しに始まり、「冠山会名簿の編集発行事業」、「冠山会総会の活性化事業」、「郡高創立百三十周年記念事業」などの大きな事業がありました。

とりわけ冠山会総会の活性化では、総会に「賑わい」と「盛り上がり」を付加するために総会の会場を従来の母校の講堂からホテルのコンベンションホールを利用するスタイルへの転換を打ち出し、卒業後五十年を迎える学年の同窓会とタイアップする方法を提案してまいりました。

しかし、残念ながら計画をスタートしようとした矢先に社会全体が新型コロナウイルス

スの感染拡大という大禍に見舞われ、そのため学年同窓会開催の準備を具体的に進めていただいていたにもかかわらず直前になって総会開催を中止せざるを得ない状況になってしまいました。そして開催準備作業を推進していただいた昭和四十七年卒業ならびに昭和四十八年卒業の学年幹事の皆様には多大のご労苦とご迷惑をかけてしまいました。紙面をお借りして改めて幹事各位のご尽力に敬意を表するとともに、それらに報いることができなかったことを心よりお詫び申し上げる次第です。

時が移り、幸いにも昨年度から新型コロナウイルスの感染法上の分類が季節性インフルエンザと同じ五類に引き下げられ、三年連続して開催を自粛していた冠山会総会を四年振りに開催いたしました。もちろん卒業後五十年を迎える昭和四十九年卒業生の学年同窓会とタイアップするという形で開催でしたが、当日は百二十名を超える参加者を得て盛会のように終えることができました。そのノウハウが本年度の総会へと引き継がれております。

今後はこのスタイルが定着し「賑わい」と「盛り上がり」のある冠山会総会が開催され続けていくことを願っております。

ところで郡山高校は令和五年度に創立百三十周年という佳節を迎えました。

私事で恐縮ですが、私が郡山高校に奉職していた三十数年前、当時は奈良県内で最初に創立百周年を迎える高等学校として「郡高の教育如何にあるべきか」などという議論が白熱しておりました。そのような中で当時の校

長先生が示された方向性は「文武両道は堅持しつつも、田舎の伝統校から真の進学校へと成長させる」でありました。

この掛け声の下で、先生方がスクラムを組んで部活動を熱心に指導し、進学指導の充実を着実に推し進め、その成果として野球部を始めとして多くの部活動が全国大会に出場し、進学面でも難関国立大学への進学状況が年々向上していきました。

あれから三十年、母校は創立百三十周年を迎えました。今や門外漢の私には現在の郡高教育の実態や校内の雰囲気などは分るはずありません。ただ、創立百周年当時の熱気と迫力を肌で感じることできた卒業生の一人として、「今、百三十周年を迎える郡高に当時のような熱気やパワーがあるだろうか」と少しばかり心配になるのは単なる老婆心なのでしょうか。否、母校に対する愛情が故の心配なのかも知れません。

「冠山会は郡高のバトロンです。」私が冗談でよく言ってきた言葉ですが、その真意は「支援はするけれども見守るだけで口は出さない」です。

私たち卒業生が願うのは母校の発展です。そして母校の発展を支援するために、いつの日か冠山会が会員各位に無理をお願いすることがあるかもしれません。その時は私も一人の冠山会員として支援の輪に加わらせていただきたいと思っています。

結びになりますが、郡山高校と冠山会の尚一層の発展を心から祈念して退任のご挨拶といたします。

松 籟

久しぶりに桜の花が美しく咲き誇る入学式を行うことができました。近年は、暖冬の影響で桜の開花時期が早まり、入学式の頃にはすっかり葉桜となっているのが恒例でしたが、今年は、3月に花冷えの日が続いたおかげで桜花に見守られての入学式となりました。式後は、正門前の校名碑の前で写真を撮ろうと、親子連れの長蛇の列ができていましたが、これもまた、郡高名物の一つかと、懐かしく眺めておりました。

本校に赴任して、2度目の春を迎えています。昨年度、本校に着任するまでは、まさか自分が教員として母校に戻る日が来るとは、思いもしませんでした。しかし、ありがたい縁をいただいて、数十年前に母校で生活してみると、生徒として過ごした3年間が、いかにかけがえない時間であったかに、改めて気付かされています。目の前で、まさに青春を謳歌している生徒たちの目映いこと！輝かんばかりの彼らの姿をうらやましく見つめる毎日です。我らが後輩たちは、今日も元気に文武両道に励んでいます。

4月初旬、入学したばかりの新入生に話をする機会をいただきました。ピカピカの1年生が、キラキラとした目で見つめてくれる中、本校のあゆみやスクールミッションなど、役目上、真面目なお話をいたしました。最後に5分だけ、本校の先輩として話す時間をいただきました。その中で私が新入生の皆さんにお願いしたことは、郡高生としての誇りをもって生活して欲しいということです。と申しますのも、この1年あまりの間に、地域で暮らす皆様からの声を耳に

冠山会員の皆様へ



校長 中川 照久

平素より冠山会の皆様方には、本校の教育活動に物心両面からご支援をいただき、心から感謝申し上げます。

今年は昨年とは異なり、桜の開花が遅くなつたことから、郡山城跡の桜が満開の中、361名の入学生を来賓の皆様とともに迎えることができました。小林会長より新入生に向けて、激励のお言葉をいただきましたこと、厚くお礼申し上げます。また、昨年度創立百三十周年の式典行事に關しまして、冠山会の皆様のご尽力により無事終えることができましたこと改めてお礼申し上げます。

季節も進み、日に日に太陽の暖かさを感じるようになってきました。晴朗な日には、中庭で生徒たちが楽しげに昼食を取りながら談笑しています。青春を謳歌しているその姿は、とてもほほえましいものです。ソメイヨシノは散つた後でしたが、八重桜が満開を迎え、集う生徒たちを見守るように咲いています。

以前、私は桜の木に向かって頭を下げている人を見て、「あの人は何をやっているのか。」と不思議に思ったことがありました。理由を知らない人からすれば、まったく不思議で滑稽な光景だったと思います。

なぜ、桜の木に向かって頭を下げているのか

かというところ、五穀豊穡を願う「豊作祈願」をしているのだと人から教えていただきました。

桜は、天照大神以前から「農作物の穀霊（山の神・田の神）」として信仰されている「サ神」が宿る木として、古くから崇められてきました。サクラの語源には諸説ありますが、サクラの「サ」はサ神、「クラ」は神の居場所である神座を意味しているそうです。満開の桜を求めて、多くの人が花見と称して集うことには、このような神を崇め五穀豊穡を願う意味があったと言われています。桜の花は下を向いて集う人々を見守っています。これまで校内に咲き誇る桜は、校舎で過ごすたくさん

郡山高校は「文武両道」「自己実現」を教育理念のとして、国際社会で活躍する人材育成を目標に教育の充実を図ってきました。「文武両道」とは文（学習・教養）と武（部活動・学校行事）の両道に努め、優れていることを示すものです。文の中心は「授業第一主義」で生徒と教員で作上げる質の高い授業であり、武の中心は、活発な部活動や生徒が企画運営する学校行事です。郡高生はこれらの活動に全力で取り組むことを通して、互いに切磋琢磨し、自己実現に向け、明確な志と自主自立の精神をもった生徒に成長してほしいと思います。

最後になりましたが、本校教育のさらなる充実のため、冠山会の皆様方には、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて、本年度はじめに「郡高育成プログラム」というものを示させていただきました。

これから生徒たちが生きていく社会は、急速な技術革新のもと、グローバル化や情報化がますます進み、仮想空間と現実空間が融合した新たな未来社会society5.0になると言われています。これからの社会は、ますますインターネットやAIが進歩し、働き方や生活形態を一変することになります。



する機会が多くあったからです。学校にお寄せいただく声の中には、お褒めをいただくこともありますが、時に、お叱りをいただくこともあります。「電車内で郡高生に助けてもらった」、「頑張っている姿に元気をもらった」など、お褒めいただく場合には、本当に嬉しくて、本校生を誇りに思います。ただ、「電車内のマナーがなっていない」、「通学路で車の通行の邪魔だ」といった耳に痛い言葉をいただくこともあります。お褒めいただく場合も、お叱りをいただく場合も、県民の皆様はそろって「郡高生」ということを仰います。「さすがは郡高生ですね」や「郡高生なのに残念です」といった言葉は、県民の皆様が「郡高生」への期待の大きさと私は思っています。そのことが常に私の頭の中にありましたので、新入生には、常に「郡高生たれ」と話しました。街中で本校生をお見かけの際は、温かく見守っていただくと幸いです。

さて、話は変わりますが、二の丸に本校を置く郡山城がにわかに注目を浴びていることはご存じでしょうか。過日、2026年度の大河ドラマについての報道がありました。タイトルが「豊臣兄弟」とのことでした。天下人である豊臣秀吉・秀長兄弟が天下統一を成し遂げるまでの壮大なドラマとなるそうですが、主人公は弟の秀長とのことでした。

この秀長が1585年からの6年間、郡山城主として、城や城下町を整備した人物であるということから、俄然、注目スポットとなりました。これを受けて、大和郡山市でも、情報発信などに取り組む担当部署として、「大河ドラマ2026係」が新たに設置されました。地元が熱い！です。この機会にぜひ、大和郡山市内の散策などはいかがでしょう。そして、その際には、母校にも思いを馳せていただければありがたいです。

令和6年度 冠山会総会・懇親会 ～ホテル日航奈良にて～



総会

冠山会副会長 日高 容子

2020年、昭和46年卒の私たちが企画運営するはずの、学校の講堂でする最後の冠山会総会がコロナウィルスの蔓延のため、開催することが叶いませんでした。

その時より早や4年、今年度は昭和50年卒の同窓会とタイアップして、日航奈良ホテルでようやく開催することができたのです。

小林会長の開会の挨拶に始まり、議事も恙なくスムーズに進行し、奥田会長を始め、新役員の改選も承認され、新しい体制のスタートを切りました。

総会の最後は昭和33年卒の大大先輩の内藤眞さんによる詩吟の披露がありました。お伺いするところによると骨折をし、入院・手術をされるも、冠山会総会での詩吟の披露をという強い一念で、車イスから杖で歩けるように、リハビリをがんばられての今日があると聞いてます。私たちも見習わなければと敬服致しました。

会場全員の大拍手喝采の中、応援の同級生の方々と共にご満悦の表情で帰っていかれました。花を添えて頂きありがとうございました。御陰様を持ちまして無事総会も滞りなく進み、最後は満場の同窓生の思いのこもった校歌を歌い、お開きとなりました。

参加者全員の写真撮影の後、50年卒の方々が企画運営して頂いた懇親会場へと移動しました。総会にご出席頂きご協力頂きました皆様方へ心から感謝を申し上げて報告と致します。ありがとうございました。

学年同窓会を終えて雨降りの外を眺めながら

昭和50年卒 柴田 敏男

手元の葉書に学年同窓会の中止と今後の予定についてと記されてある。

消印は3の数字が読めるので令和3年の葉書と分かります。

そこには学年同窓会は3年後に開催予定として、冠山会総会後に同会場で開催とある。

また、翌年3月1日の卒業式に50年前の卒業生として我々が式典に招待されるとのこと。

整理整頓が苦手な私ですが、この葉書だけは無くさず手帳に挟み込んで3年待ちました。

そして寒さ厳しい今年2月初め浅井史子さんから、学年同窓会で修学旅行の思い出話を2年1組だった人たちに話してもらおう予定ですとのこと連絡が来たのです。

色々経緯があって、何故か私がメインで話すことになりました。

50年前の思い出は各人其々違うことは当然で、共有出来ない部分はあっても当たり前と観念して話す内容をメモにしました。



実社会から隔絶した生活を9年過ごした私が話し出来るのかなあ？

当日徹鼻くなつた上着を引っ張りだして日航ホテル奈良に向かうのですが、中々に気が重いです。

学年同窓会では、新しく冠山会

会長に就任された奥田秀紀様の開式のご挨拶に続き、学年幹事竹本徹君の挨拶と乾杯の発声と進みます。

高級ホテルで美味しい食事を頂きながら、思い出に浸る企画は素晴らしいものですが、いざ演壇に上がり自分がマイクを握るとなると中々緊張致しました。

そこは優しい郡高生のこと生温かく見守って頂きました。

奥田会長様、人生二度三度と楽しむべしとお話は賛成です。浅井さん、パワーポイント作成や司会進



行と八面六臂の大活躍でした流石です。
竹本君、大役ご苦労様でした。吸い込まれる様に寄附してしまいました。

80周年壁画作成者の「ピフオーアフター」の匠、関谷君本当に素晴らしい。

思い出の唄「心の旅」熱唱の加藤君、ギターの貝谷和尚。懐かしかったです。

甲子園ベスト8裏話を暴露の竹林君瀬谷君清原君、オフレコレベルの話に爆笑しました。

さてトリは我等が乾應援団長の登壇です。華麗なテク「手句」のリードで全員で校歌斉唱すれば、暮れなずむ榎原球場で宿敵天理高校を準決勝で撃破したことを思い出しました。

今回えなかった同級生の皆様へ、来年3月1日は予定を空けておいてくださいね。卒業式に招待して頂きます。

母校はすっかり姿を変えましたが、思い出は褪せることなく私たちを待っています。

私の座右の銘は、「気持ち17歳の夏のまま」です。

同級生の皆様、卒業式にて会える日を心待ちにしています。

心待ちにしています。



卒業式に参加して

昭和49年卒 申辻 敏晴

卒業五十年を記念して、卒業式に招待を頂き参加しました。

素晴らしい卒業式でした。特に、送辞、答辞には涙をこらえるのに必死でした。

送辞・答辞の中に文化祭のことがでてきましたが、五十年前の文化祭を思い出しました。

文化祭の前日の夜から当日の朝にかけて嵐で、校舎に取り付けた大きな壁画を維持するのに、仲間と徹夜したことが懐かしい思い出です。

参加した友人が「卒業式当日、進学が決まっていた東京の大学の野球部の練習に参加して出席できず、今日卒業式に参加して、やっと卒業することができました。」と言っていたのが印象的でした。

今日の卒業式から頂いたパワーをエネルギーにして、これからの人生を歩んでいきます。ありがとうございます。



お知らせ！

昭和50年3月卒業生の皆さんへ

昭和50年卒業の方は、卒業50周年に当たります。

来年の卒業式(令和7年3月1日)に招待されます。

昭和51年3月卒業生の皆さんへ

昭和51年卒 水本 裕文(4組)

松田 佳子(9組)

令和7年5月11日の日曜日、母の日ですが、この日は私たち28期生(昭和51年3月卒業)の者にとっては特別な日となります。

例えば、ほぼ50年前の卒業式、私たちは旧の講堂において式に臨みました。

会場にはスーツ姿の男性、和服姿の女性、当時の私たちにとっては年配の方が何人もおられるという感じに映ったものでした。

当時はその方々がどういう立場の方であるのかもわからずに、後に卒業50年で式に招待された方であることを教えて貰いました。

その方々は旧制中学と高等女学校を卒業された方であつたと思われます。

あれから50年、まさか私たちがその年代となり、来年の冠山会総会、その後の学年同窓会、再来年の高校卒業式に招待されることになると思うと感慨深いものがあります。

この形式は数年前に企画されましたが、コロナ禍により実際に始まったのは私たちの2学年先輩の方からです。

これまで私たちは7回学年同窓会を開催してきましたが、来年の冠山会総会、そしてその後の学年同窓会は卒業50年という区切りの特別な会になると思われます。

7回目の学年同窓会の報告の際にも記しましたが、皆さん、来年、そして再来年の卒業50年の催しに元気に参加できますように、くれぐれも体調には気をつけてくださいね。



郡山高校創立130年を

祝すを吟じ終えて

昭和33年卒 内藤 眞

私は昭和33年郡山高校を卒業して、奈良教育大学に進学致しました。元は奈良学芸大学で奈良市登大路に有りましたが、高畑に移転し、名称も奈良教育大学と変わりました。そこで出会ったのが、演劇部で1回生に自分の意志で演劇研究会に入部致しました。そこで経験した人間関係が、私を大きく育ててくれました。2回生から部員の都合で部長に推薦され、あまりの重圧に京都の喫茶店で部員の前で涙を流した事もありました。4回生になり、就職を決めなければならぬ時に、私は先生に決まりました。何故ならば、その時我々は僻地に行かなければならなかったのです。(中風の母親を一人奈良に置いて)その為車が好きたったので、学生会の広告に出ていたマツダオート大阪を受験しようとしていたのですが、丁度演劇研究会の先輩に大阪マツダ販売株式会社に就職された方がおられて、その人のツテで同社に入社致しました。その会社に入社して配属され

たのが「特需部」一般の営業所ではなく、官庁や大会社を担当する部門でした。そこで40年余りお世話になり、最後は役員となり、マツダオート奈良に転籍しました。

その特需部の得意先に近畿電気工務株式会社(現在のきんでん)がありその会社の車輛担当者から、内藤君詩吟しないかと誘われ、昭和44年(1969)10月公益社団法人関西文化協会に入会、三段昭和50年3月称号「眞」十段平成12年7月(2000)、師範昭和60年7月(1985)、総師範平成21年9月(2009)と進みます。作

詩は平成17年6月から奈良市の西部公民館で作詩教室が開講され、喜多莒啓先生が東大阪市から出張されておられました。この度の詩は私が白内障で大和郡山病院に入院していた時、荒木紀子先生に薦められたものです。考えてみますと私は多くの人に



支えられ、お世話になりました。どうも有難うございました。

繋がり

昭和39年卒 蕪木 稔

昭和39年卒学年幹事役を退くにあたり、関係者の皆様に紙面を借り一言お礼を申し上げます。「ありがとうございます」

多忙な本部役員と異なり、学年幹事の私は、役員会に顔を出し、会議の際意見を述べさせていた程度でありましたが、10数年の月日が過ぎ、年齢80歳近くになり、先輩諸氏が退かれ、一番年長になっていたのです。真に「光陰矢の如し」です。

学年幹事就任期間に、学年同窓会を郡山城ホールにて開催し、2016年4月23日は56名、2018年3月10日は45名参加していただきました。2022年3月7日も続けて計画しましたが、コロナ感染により、70名近くの出席申し込みがありましたが、開催を断念いたしました。誠に残念な結果となりました。

幹事役をさせていただきますと、参加申し込み葉書に、現況報告を記入していただく方が多くおられ、病氣、訃報の知らせが入ってまいります。年齢からして当然ではありますが、「無常」を感じたものであります。

高校生活は3年間の短い時間ではありましたが、人生の内、心身ともに成長し、人として形成される重要な時期であったと

思われます。今でも校歌の一節が、どなたでも出てくるのではありませんか。1番には「希望」、2番には「真理」、3番には「理想」が詠われています。200年300年の後世にも繋いでもらいたいものです。2024年の今、世界はIT社会、激動波乱の時代であります。物質文明の先行きが怪しくなってきたります。地球の存続が危ぶまれる時代でもあります。郡高の校訓には「誠実」「剛毅」「雄大」の精神が説かれています。今の時代に求められている要素そのものであります。

後輩の皆様には、伝統は自らが創り手であるとの自覚で、校訓・校歌を日々の学生生活に生かしていただきたく、また卒業生の方々には、日常生活に思い出していただきたく、一筆啓上申し上げます。

郡山高校2年1組同窓会

(昭和44年時クラス会)

昭和46年卒 栗谷 宗久

昭和44年と云えば、アポロ11号が月面着陸した年です。翌年は大阪万博が千里丘陵で開催されました。

私たちは珍しいことに高校2年生の同窓会を今も続けています。

それは高校生活の一番楽しかった時を共有できたからだと思っています。修学旅行や文化祭といった行事に一生懸命頑張った

からです。

文化祭の出し物は「百姓一揆」でした。全体で2位になりましたが我々が内容的に優勝だったと考えています。某世界の先生は君たちが一番だといってくれました。

修学旅行は夜行列車で九州へ行きました。列車の座席は直角でなかなか寝付けませんでした。背丈の小さかった私は網棚で寝た記憶があります。

高校卒業後も3年をめどに同窓会をくり返してきました。古希を迎えても元気に仕事を続けている人や海外旅行等老後を堪能している人など様々です。

昨年、9月21日に富野君・小滝君や林君にお世話になり飲み物や食べ物を持ち寄りやまと郡山城ホールで同窓会を開催しました。いつ会っても気持ちは高校時代のまま楽しいひとときを過ごしました。二次会のカラオケではグループラインでみんなつながりました。



また、3年後と聞いていたのに、令和5年度秋の叙勲で我らが仲間、林昌弘君（社会福祉法人 長命荘 理事長兼 特別養護老人ホーム「フォレストホーム」施設長）が瑞宝双光章を社会福祉功労者として受けました。そこで、阪口君が中心になりました。みんなで祝おうと令和6年1月25日、あやめ館に集まりました。これは林君だけのものではなく内助の功が大きかったと参加者の意見が一致しました。（何と林君の奥様も我々の同窓生です。）

やっと開催できた

学年同窓会

昭和47年卒 井上 成功

新型コロナウイルスの感染拡大により第1回目の総会を、我々の学年同窓会とタイアップして行う予定で準備をしていたのですが中止となり、卒業50周年記念招待の時に学年同窓会を計画しましたがまた中止する事となり残念な結果となりました。

さて、今年は感染法上5類に引き下げられ社会では研修会や講習会も感染対策をして行われやっとな学年同窓会開催の気運も



我々を後押ししてくれる状態になつてきたようです。ただ私達はいより慎重に開催については考えようと思いました。その様な時に同窓生から、奈良ロイヤルホテルで同窓会のプランで最近同窓会が行われ無事開催できた事を教えて貰い、一緒にホテルに行き説明を受け、問題なく開催できる確信を得たので開催を決定しました。案内状等もその他の事はホテルが万事やってくれると言うので全てまかせました。4月21日（日曜日）に向けて走りだせました。幸いな事に返信ハガキで出席者が108名とまずまず一安心しました。

同窓会当日受付で「おはよう」「元気にしてた？」と笑顔で挨拶、記念写真を宴会会場と入口の階段で撮影し同窓会を開会しました。

この会場を紹介してくれた1組の藤本知勢子さんの司会でスタート、物故者への黙祷、コロナで少し遅れた事を詫びながら頭を垂れ冥福を祈りました。食事歓談の後、今回は冬木応援団長が自らの教え子の同窓会に招待され欠席との事、同期応援団の吉村豊君の先導で校歌斉唱をしました。

『生駒嶺遠く仰ぎみて、五月雨におう山々を〜』

「やはり校歌はいいね。当時を思い出し目頭が熱くなったよ。」と聞いて、同窓会をやれてよかったと感激しました。

最後に冠山会会長として苦勞をかけた小林勢治君が最後に挨拶

拶をしてくれました。本日の出席者への御礼と「皆様これから学年同窓会を続けますか？」と尋ねると、会場の全員から拍手が沸き起こりとても感動いたしました。よく考えると学年同窓会を行うきっかけを作ってくれたのは小林君でした。

ありがとうございます。郡高の益々の発展と活躍を祈ります。



コロナ禍を乗り越えて

7回目の学年同窓会

昭和51年卒 水本 裕文

初冬とはいえ、最近暖かく感じられるようになった令和5年11月23日木曜日の勤労感謝の日、私たち28期生（昭和51年3

月卒）は近鉄奈良駅ビル8階の中国料理百楽奈良店において、7回目の学年同窓会を開催しました。

前回の還暦学年同窓会時に、開催間隔を5年から4年へと短縮し開催する予定でしたが、ご存知のように新型コロナが日本中に拡がったため、2年の延会となり、ようやく開催することが出来ました。



当日は当初出席としてその後欠席の連絡があった方を除き、誰一人として無断欠席する方もおられず、男性59名、女性58名の117名が集いました。

最初に亡くなられた先生や同窓生を悼み、黙祷を捧げました。

その後、前日が良い夫婦の日ということで、今回唯一、ご夫婦で参加された西浦ご夫妻の乾杯の発声により同窓会は始まりました。

今回は開催間隔が6年も空いてしまったことから、特に企画もなく始まりましたが、全員がほぼ前期高齢者となっているのに、会えばほぼ50年前の高校生時代に帰り、久しぶりの再会ということもあって、あちこちで会話が弾み、あっという間に時

は経過しました。

途中では写真部の田中君のカメラによる3年時のクラス写真撮影を挟みながら、最後はいつもの西川応援団長による校歌斉唱、そしてこれも恒例の全体写真撮影して学年同窓会は終了しました。

終了後は参加可能な方と共に小西通のWestern酒場 純 に場所を移しての二次会、その後も奈良の街で宴は続いたようです。次回は卒業50年として冠山会総会に招待され、その後8回目の学年同窓会開催の運びとなります。

それまで皆さん、体調に留意して、元気に再会し、卒業50年を大いに祝いましょう。



古稀同窓会

昭和48年卒 阪本裕紀子

コロナに振り回された同窓会がやっと開催されました。

令和6年5月18日(土) ホテル日航奈良に、待ちに待った昭和48年卒業の同窓生100名が集まりました。2名の幹事さんから開催までの紆余曲折の話をきいて、大変な思いをして開催までこぎつけてくださったのだなと思いました。

私の記憶が正しければ、第1回の学年同窓会は「卒業30周年」学校の講堂に集合、郡山城ホール・レセプションホールで懇親会をしました。まだまだ働き盛り、子育て真っ最中で忙しい日々を過ごしていました。

2回目は「還暦同窓会」でした。



最初の同窓会から12年経ち、定年を迎えた頃でした。今回と同じホテル日航奈良で「たぶん日本一おもしろい還暦同窓会」と銘打って130名が大集合しました。還暦を迎え、同窓会という楽しい一日を過ごして、第二の人生のスタートを切ったのがついこの前のように感じます。

それから、早や10年、今回の「古稀同窓会」は、コロナによる延期、中止を乗り越えて、みんなの願いが叶った開催でした。前回、前々回の同窓会もその時の時学生時代に戻り楽しい時間を過ごすことができましたが、今回の同窓会には格別な思いがありました。

古稀とは「人生を70歳まで生きるの是非常に稀なこと」という意味だそうです。昔はそうだったかもしれませんが、今では「人



生100年時代に向けて」と言われています。私たちの人生はまだまだ、これからこれから!! 幹事さんにはお世話をおかけしますが、また、同窓会の案内が届くのを楽しみに待っています。



昭和59年卒業『1984会』のみなさまへ ～学年同窓会開催のお知らせ～

1. 日時
2026年(令和8年)5月3日(日)
午後1時より
2. 場所
ホテル日航奈良

母校の清掃ボランティアで

(令和5年12月2日実施)

コロナ禍も落ち着き、今年も予定通り、冠山会の皆さま並びに中川校長先生をはじめ諸先生方の参加のもとで母校の清掃ボランティアを実施しました。

体育教室があった場所に新しい理化館が建てられ、使用が始まっています。今回も郡高生が毎日登下校する南門から冠山会館までの通路及び冠山会館の周辺の植栽の剪定、そして自転車置き場の周りの枯れた木々の伐採をしていただきました。中庭の木々もかなり大きくなり形を整えていただきました。大木はここ数年冠山会の方でかなり伐採していただいております。最近大和郡山市が郡山城跡の公園化事業を進められていて、天守台や散策道の整備も着々と進んでいます。城内高校跡もきれいな芝生の公園になっています。このように城跡は整備され、ますますきれいになってきました。ボランティアを通じてお城の中にある母校の環境整備の必要性をより一層感じました。毎年1回ではありますが、母校を思う熱い気持ちを持ちながら作業をさせていただきました。本年度もより多くの冠山会の卒業生の参加をお待ちしています。



〒639-11011
奈良県大和郡山市城内町1-26
奈良県立郡山高等学校
冠山会事務局 宛て
FAX番号
0743-5510556

創立130周年記念式典が

執り行われました

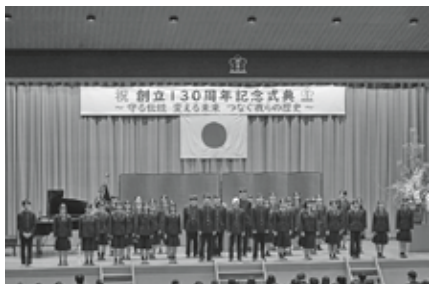
澄み渡った好天令和5年10月11日、多くの来賓の方々のご臨席を賜り、郡山高校創立130周年記念式典が執り行われた。生徒が制作した130周年記念合唱曲「青春桜花」、シンボルマーク、テーマなどが披露され、記念講演会は卒業生である朝日放送テレビアナウンサーの岩本計介氏による「私と郡山高校」と題したお話しで、予定していた1時間があつという間に過ぎた。



記念の人文字



130周年シンボルマーク



記念合唱曲を披露する合唱部



岩本計介氏による記念講演

「卒業生の今と未来」

●吉川 馨（令和4年卒）

2025年大阪・関西万博でのオンラインオーケストラ

（自己紹介）

こんにちは。私は2022年3月に卒業した吉川馨です。現在は大阪大学工学部の3回生です。郡高在籍時は水泳部に所属しており、また生徒会長も兼任していました。

（現在の活動）

現在は、大阪大学のa-tuneというチームで活動をしています。a-tuneは大阪大学2025年日本国際博覧会推進委員会の学生部会に所属する学生団体で、大阪関西万博関連のプロジェクトを担う予定です。世界の学生をオンラインで繋ぎ、万博会場で一緒に音楽を奏でる音楽イベント、「e-Symphony」の開催を目指しています。

（万博とは?）

万博といえば、ほとんどのみなさんのイメージにあるのは、1970年の大阪万博ではないでしょうか。太陽の塔がある吹田の万博記念公園の場所で開催された万博です。テーマは「人



類の進歩と調和」で、日本の最新技術などが多く展示された博覧会でした。しかしインターネットが発達した現代ではただの新商品展示会は世界中で開催されており、それに様々な方法で参加することが可能となっています。この時代に行う万博として求められるのはただの新技術の博覧会としての役割だけではなく、地球規模の諸課題を解決するために世界に共通意識を普及させ、具体的な解決策を提示する「出発点」としての役割です。私たちa-tuneもその「出発点」として、世界同時に一体となれるイベントを開催します！開幕まで残り1年を切った今日、関西で万博という言葉聞く回数には日に日に増えています。今回の万博は見るだけでなく参加ができる万博です。ぜひ万博会場の夢洲でお会いしましょう!!

（音楽で世界を繋ぐことの素晴らしさ、感動）

この万博という大舞台でパフォーマンスする私たちa-tuneは、オンラインオーケストラ「e-Symphony」は紛争や分断の終わらない社会への疑問意識から生まれたプロジェクトです。

私たちのイベントでは国境も関係なく、国際関係では決して良好とはいえない国々の学生たちが一つの音楽を奏でています。言語を用いないコミュニケーションツールである音楽を使つたこのプロジェクトは、世界中から参加が可能です。このプロジェクトを一番近くで見ている身ですが、国など関係なく一人一人がa-tuneの理念に共感し一つの音楽を奏でている様子は、めちゃくちゃ感動的です！いつか世界中でこのように全員が音楽を奏でる日が来れば本当に世界平和を達成しうる日も訪れるのではないかと感じます。

（在校生へ!!）

私は冒頭でも申し上げたように、中学・高校ともに水泳部に所属しておりました。高校まで音楽に何も触れていない男が急にこんなプロジェクトに所属していますが、高校時代の学びを無駄だと思ったことは一度もありません。勉強はもちろん受験のために必要ですが、受験や部活で鍛えた目標達成の能力や生徒会で鍛えた人前で喋る度胸など今の活動のベースになっているのは高校時代に鍛えた能力です。郡高にはそれだけの能力を鍛えるための先生方や設備がちゃんと揃っています。将来飛躍できるよう、ぜひ頑張ってください！

おめでとうございます

令和5年褒章受章者

春の褒章・叙勲

瑞宝中綬章

安井 義和

昭和36年卒
大阪教育大学名誉教授

瑞宝小綬章

土谷 尚敬

元校長

旭日双光章

浅井 啓祐

昭和46年卒
元大和高田市議

中川 罔昭

昭和34年卒
元食品衛生協会
代表理事副会長

瑞宝双光章

岡崎 邦和

昭和30年卒
元公立小校長

北川 洋

昭和36年卒
元県中央卸売市場長

秋の褒章・叙勲

藍綬褒章

小谷千代美

昭和42年卒
保護司

旭日双光章

北門 勝彦

昭和47年卒
元大和郡山市議

旭日双光章

森井 常夫

昭和47年卒
元香芝市議

冠山会・歴史愛好会の皆様

歴史愛好会の活動を終了します(お知らせ)

冠山会・歴史愛好会の皆様にはますますご健勝でつつがなくお過ごしのことと拝察いたします。

「親睦と学び」を旗印に始めた歴史愛好会は、ここ数年コロナ感染症の影響が長引き活動を延期した期間が暫く続きました。コロナで活動を休止・延期している間も、皆さんとの「ワイワイ・ガヤガヤ」の楽しいおしゃべりが脳裏を離れず、再開を熱望してくださる会員各位の声も多く寄せられてきていました。コロナ感染症が5類に分類されたことで、再開を決意したのですが、気力はあるものの自分の体力に自信が持てなくなってきました。後を継いでくれる方を探したのですが見当たらず、ここらあたりが潮時と思い存続を断念することになりました。誠に勝手ながらどうぞご理解を賜りますようお願いいたします。

思えば10数年ほど前16人ほどで始めた史跡めぐりも、40名余の会員となり、訪ねた神社仏閣・名所旧跡はメイン地50カ所、周辺地域の散策を含めると優に100を超すまでとなりました。ほんの一例をあげれば、日本の始まりの地飛鳥探索をはじめとして、紅葉を愛でながら「最澄と空海の出会いと別れの場」の神護寺、法然の弟子が称える念仏に魅せられた「宮廷女官松虫・鈴虫姉妹の悲劇の地」京都東山山麓の法然院、動く襖絵や謎かけ襖絵のある控えの間、燃えるようなお庭の紅葉に魅入った山科毘沙門堂。遠く二上山を眺め「大津皇子と大伯皇女の悲恋物語」に思いを馳せた磐余池廃寺跡。這いつくばるようにして古墳内部に入り、懐中電灯に照らし出された石櫛

内側壁の見事な細工に感嘆した終末期古墳見学。椿井城跡から見渡すかつての古代平群一族の繁栄の跡を物語る古墳群。リンゴ狩りと急な斜面に埋葬されている太安万侶の墓誌埋葬塚にお参りした田原の里。邪馬台国近畿説をとる学者がその所在地とする纏向遺跡。韓国にも訪れました。ソウル、水原、慶州、そして釜山では古代倭と百濟・新羅間の歴史に思いを馳せました。

このように、私たちが短い期間にこれだけの活動が出来ましたのも会員様の熱意と意欲と努力の賜物であり、その活動をご支援くださった冠山会会長様はじめ役員、事務局の皆様のお蔭と感謝申し上げます。有難うございました。

冠山会歴史愛好会事務局

冠山会副会長

元奈良県高等学校歴史教育研究会会長
昭和36年卒 吉田 一男

元冠山会長

元奈良県高等学校歴史教育研究会会長
昭和34年卒 竹村 隆



冠山会活動へのご協力お願い

「冠山会だより」の発行事業は会員(卒業生全員)の協力で運営されています。

年に1度発行の「冠山会だより」は、全会員約32,000人に発行し、会員相互及び現役の郡高生を繋ぐ唯一の架け橋となっています。

今後、一層充実した同窓会活動をしていくために「冠山会だより」に企業広告を掲載していただける方を募っています。

〇〇株式会社

冠山 太郎 S〇年卒

1マス ¥5,000

約9cm×約5cm

ベーグル&プチラボ

ナッツくん

～噛み応えと発酵に特長～

大西 弘章

(昭和50年卒)

王寺駅北口
すぐ



文武両道に立つ！

日本社会は近年大きく変化しています。人工知能（AI）の活用や、スマートフォンの進化、グローバル化、宇宙開発の進行など、いろいろなことが急速に変化しており、未来の予測が非常に困難な時代を迎えていると言えます。そんな未来の社会で生きていくために将来を見据え、学校での学びも時代に合わせて変化していかないとはいけません。

このような変化の激しい時代に合わせて「生きる力」を身につけていくために、新学習指導要領では、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力など」「学びに向かう力、人間性など」の3つの柱で「資質・能力」をバランスよく育てて行くことを目的としています。それに対する取り組みの一つとして、2025年度の大学共通テストからは、新教科「情報」が加わり、現行の6教科30科目から、7教科21科目へと変更されます。また各教科の科目名や解答時間も一部変更されています。

このように「新課程1年目」ということで、いくつかの変更点はあるものの、地道に学習に取り組む姿勢や部活動を通して多くの経験を積むといった、今までの郡高生の姿まで変える必要はありません。

日々の授業を大切に基礎学力をしっかりと身につける、探究活動を通して主体的な学びを深め、思考力や表現力を培う、部活動を通して人間性を高める、インターンシップなどを通じて社会性を身につける、など有意義な学校生活を送ることで、進むべき卒業後の道を見つけてほしいと考えています。
(郡山高校 進路指導部)

2023年度卒業生の進路状況

■ 進路状況(実人数)

	受験者数	4年制大学				短期大学	準大学	専修学校 (各種学校)	就職	その他
		国公立			私立					
		計	国立	公立						
令和6年3月卒業生	356	92	57	35	194	1	4	9	1	55
既卒生	31	22	18	4	9	0	0	0	0	
合 計	387	114	75	39	203	1	4	9	1	55

■ 2024年度入試 合格者数

国公立大学	合格者数	国公立大学	合格者数	私立大学	合格者数	私立大学	合格者数	私立大学	合格者数
山形	1	山口	1	青山学院	1	龍谷	127	関西学院	39
千葉	1	九州工業	1	慶應義塾	1	立命館	83	甲南	4
東京海洋	1	東京都立	1	専修	1	追手門学院	3	甲南女子	1
東京農工	1	名古屋市立	1	大東文化	2	大阪医科薬科	9	神戸学院	1
金沢	1	滋賀県立	1	中央	1	大阪音楽	1	神戸薬科	3
名古屋	1	京都府立	2	東海	1	大阪経済	3	武庫川女子	30
三重	7	大阪公立	23	東洋	1	大阪工業	16	畿央	27
滋賀	3	神戸市外国語	1	明治	1	大阪産業	11	天理	3
京都教育	1	兵庫県立	2	早稲田	1	大阪歯科	1	奈良学園	2
京都	1	奈良県立	1	昭和音楽	1	関西	184	防衛大学校	1
大阪	7	奈良県立医科	5	中京	2	関西医科	5	私立合計	1,123
神戸	9	公立鳥取環境	1	京都産業	26	関西医療	1		
大阪教育	20	岡山県立	1	京都女子	40	関西外国語	9		
奈良教育	10	県立広島	1	京都精華	1	近畿	245		
奈良女子	6	広島市立	1	京都橘	4	摂南	22		
和歌山	1	北九州市立	1	京都薬科	9	相愛	1		
岡山	3	国公立合計	121	同志社	139	梅花女子	6		
鳥取	1			同志社女子	47	森ノ宮医療	4		
高知	2			佛教	1	大和	1		

大阪・金剛山 奈良・観音峰、滋賀・打見山、蓬萊山
奈良・三峰山 奈良・高見山、奈良・大天井ヶ岳、滋賀・武奈ヶ岳、京都・大文字山

【文化部】**◆吹奏楽部◆**

○大和郡山市 水無月コンサート
出演

○第65回奈良県吹奏楽コンクール
高等学校の部J 金賞

○第38回奈良県吹奏楽コンクール
高等学校の部A 金賞

○第38回奈良県吹奏楽コンクール
優秀賞

○大和郡山市 親子まつり
出演

○大和郡山市創立50周年記念事業
JCオースタムフェスタ
出演

○奈良県吹奏楽フェスティバル
出演

○校内アンサンブル発表会 開催

○第51回奈良県アンサンブルコンテスト
高等学校の部
木管8重奏 金賞(県代表)

○第50回関西アンサンブルコンテスト
高等学校の部
木管8重奏

○第50回関西アンサンブルコンテスト
木管8重奏

○第50回関西アンサンブルコンテスト
木管8重奏

○第50回関西アンサンブルコンテスト
木管8重奏

○第50回関西アンサンブルコンテスト
木管8重奏

○第50回関西アンサンブルコンテスト
木管8重奏

○第50回関西アンサンブルコンテスト
木管8重奏

○第50回関西アンサンブルコンテスト
木管8重奏

○第50回関西アンサンブルコンテスト
木管8重奏

○第50回関西アンサンブルコンテスト
木管8重奏

○第50回関西アンサンブルコンテスト
木管8重奏

○第50回関西アンサンブルコンテスト
木管8重奏

○第50回関西アンサンブルコンテスト
木管8重奏

○第50回関西アンサンブルコンテスト
木管8重奏

○第50回関西アンサンブルコンテスト
木管8重奏

○第50回関西アンサンブルコンテスト
木管8重奏

○第50回関西アンサンブルコンテスト
木管8重奏

等学校部門Aグループ出場
金賞受賞・県代表(さざんかホール)
9月10日(日)

○第90回NHK全国学校音楽コンクール近畿ブロックコンクール出場(NHK大阪ホール)
9月23日(土・祝)

○第78回関西合唱コンクール高等学校部門Aグループ出場
銀賞受賞(兵庫県立芸術文化センターKOBELCOホール)
11月4日(土)

○第38回奈良県高等学校総合文化祭・合唱部門参加(さざんかホール)
11月19日(日)

○第43回近畿高等学校総合文化祭三重大会合唱部門(三重県文化会館)
12月17日(日)

○第17回奈良ヴォーカルアンサンブルコンテスト出場
金賞受賞(さざんか小ホール)
3月9日(土)

○第16回大和郡山市合唱フェスティバル出演(DMG MORIやまと郡山城ホール)
新入生歓迎会、文化祭、学校説明会等で合唱

○放送局◆
第70回NHK杯全国高校放送コンテスト奈良県大会
アナウンス部門 優秀賞1名
朗読部門 優秀賞1名

○第70回NHK杯全国高校放送コンテスト全国大会
アナウンス部門 1名
朗読部門 2名出場

○第47回全国高等学校総合文化祭奈良県大会(玉山ホール)
奈良県選抜女声合唱団として2名参加

○第90回NHK全国学校音楽コンクール奈良県大会出場
金賞受賞・県代表(さざんかホール)
8月20日(日)

○第32回奈良県合唱コンクール高

等学校部門Aグループ出場
金賞受賞・県代表(さざんかホール)
9月10日(日)

○第90回NHK全国学校音楽コンクール近畿ブロックコンクール出場(NHK大阪ホール)
9月23日(土・祝)

○第78回関西合唱コンクール高等学校部門Aグループ出場
銀賞受賞(兵庫県立芸術文化センターKOBELCOホール)
11月4日(土)

○第38回奈良県高等学校総合文化祭・合唱部門参加(さざんかホール)
11月19日(日)

○第43回近畿高等学校総合文化祭三重大会合唱部門(三重県文化会館)
12月17日(日)

○第17回奈良ヴォーカルアンサンブルコンテスト出場
金賞受賞(さざんか小ホール)
3月9日(土)

○第16回大和郡山市合唱フェスティバル出演(DMG MORIやまと郡山城ホール)
新入生歓迎会、文化祭、学校説明会等で合唱

○放送局◆
第70回NHK杯全国高校放送コンテスト奈良県大会
アナウンス部門 優秀賞1名
朗読部門 優秀賞1名

○第70回NHK杯全国高校放送コンテスト全国大会
アナウンス部門 1名
朗読部門 2名出場

○第47回全国高等学校総合文化祭奈良県大会(玉山ホール)
奈良県選抜女声合唱団として2名参加

○第90回NHK全国学校音楽コンクール奈良県大会出場
金賞受賞・県代表(さざんかホール)
8月20日(日)

○第32回奈良県合唱コンクール高

等学校部門Aグループ出場
金賞受賞・県代表(さざんかホール)
9月10日(日)

○第90回NHK全国学校音楽コンクール近畿ブロックコンクール出場(NHK大阪ホール)
9月23日(土・祝)

○第78回関西合唱コンクール高等学校部門Aグループ出場
銀賞受賞(兵庫県立芸術文化センターKOBELCOホール)
11月4日(土)

○第38回奈良県高等学校総合文化祭・合唱部門参加(さざんかホール)
11月19日(日)

○第43回近畿高等学校総合文化祭三重大会合唱部門(三重県文化会館)
12月17日(日)

○第17回奈良ヴォーカルアンサンブルコンテスト出場
金賞受賞(さざんか小ホール)
3月9日(土)

三重大会
朗読部門 1名出場

◆筆曲部◆
11月 第38回奈良県高等学校総合文化祭日本音楽部門(優秀賞)
第43回近畿高等学校総合文化祭三重大会日本音楽部門
出演

12月 たんと郡高広場クリスマス会にて演奏

3月 第63回大和郡山お城まつりにて演奏

〔校内〕新入生歓迎の集い、文化祭で演奏

◆科学部電気班◆
●WRO Japan 2023奈良大会予選
●エキスポパート競技
●ミドル競技
●高校生部門 出場

●オリジナル動画の製作
●オリジナル動画の製作
●オリジナル動画の製作

●文化祭で映画製作・発表
●「けいはんなアイデアソン2023」
●テーマ「万能×危険!…生成AI技術のイケてる活用術」の部
最優秀賞

◆ESC◆
【英語プレゼンテーション大会World Youth Meeting 2023】
Gold Award受賞(8月)
【第5回奈良県高等学校英語暗唱大会】
参加(11月)
4位 入賞1名

【奈良県高等学校英語部交流会イングリッシュフェスティバル】
参加(12月)
【第3回奈良県高等学校「ティベート大会」】
優良賞(12月)

◆生物部◆
○グリーンヒドラの出芽に関する実験・研究を行い、けいはんなサイエンスフェスティバル、「サイエンスなら」科学研究実践活動発表会、青跳高等学校研究発表会等にてポスターによる研究発表を行う。

○「けいはんなアイデアソン2023」参加。
○青少年科学の祭典に参加。「バードコール」作成を行った。
○鷺池水生フランクトン調査など各種実験観察を行う。

◆写真部◆
○出品
・第43回近畿高等学校総合文化祭写真部門県代表選考会 8月
・令和5年度奈良県高等学校総合文化祭写真部門 11月
・第13回高校生の見た奈良大和路写真展 2月

○撮影会
・神戸元町、ハーバーランド、メリケンパーク 8月

◆将棋同好会◆
二年生九名で活動しました。
四月二十九日(土・祝)
・第43回全国高等学校総合文化祭将棋部門 奈良県予選 出場
・七月二十三日(日)
・第四十三回近畿高等学校総合文化祭将棋部門 奈良県予選 出場

◆新聞局◆
「啓明新聞」第二八二号発行

◆華道部◆
流派「甲州流」
活動場所 校友会館一階
・文化祭にて展示発表
・玄関 校長室、昇降口に展示

◆軽音楽同好会◆
放課後週四日、校友会館一階で練習を行う。
・九月、本校文化祭にて演奏。
・三月、プラチナ食堂にて発表会を開催。

◆演劇部◆
第三十八回奈良県高等学校総合文化祭演劇部門並びに第四十八回奈良県高等学校演劇発表会県予選 優秀賞

◆美術部◆
・第三十八回奈良県高等学校総合

文化祭ポスター原画佳作
・第三十八回奈良県総合文化祭作品出品
・第三十一回アートグランプリ作品出品
・第四十一回読書感想画奈良県コンクール優良賞

・柳澤神社大絵馬奉納
・やまと郡山図書館にて立体作品展示
・ギャラリー桐寅にてアートグラ

ンプリ選抜作品展示
・校内人権作文集表紙紙絵 制作

◆書道部◆
・第二十四回高校生国際美術展 奨励賞二名
・第二十八回全日本高校・大学生書道展 書道展
・大賞一名 優秀賞二名
・第五十回奈良県ジュニア美術展 知事賞一名 佳作四名
・第三十八回奈良県高等学校総合文化祭書道部門 優秀賞一名
・第七十回日本学書展 特選三名
・第六十九回大神神社書き初め祭り 宮司賞一名 特選二名

◆応援局◆
応援局は、夏の全国高等学校野球選手権大会奈良大会において、大会に出場する野球部を応援することを主な活動として取り組んでいる。コロナのため2022年、3年ぶりに応援局チャリダーとして、夏の大会の応援をすることができた。今年度は部員3年2名、2年7名、1年4名の計13名である。野球部員や応援一般生徒とともに力強く応援し、初戦を勝利し、胸を張って大きな声で校歌を歌うことができた。大会後も来年度の甲子園を目指して日々の練習に励んでいる。

トピックス

放送局の活動

顧問 西村 亜矢



私が本校に赴任し、放送局顧問となったのは2020年の4月のことでした。ちょうど新型コロナウイルス感染症が猛威をふるい、学校が臨時休校になった頃のことです。その後分散登校を経て、少しずつ授業はできるようになりましたが、部活動の大会は次々と中止され、運動部文

化部を問わず、例年通りの活動はできなくなっていました。中でも「発声」が基本である放送局にとってはマスクをしながらの活動は大変難しく、生徒と共に試行錯誤する日々が続きました。

昨年、ようやくNHK杯全国高校放送コンテストが例年通りの形で実施され、3年生1名、2年生2名が出場を果たしました。3年生の生徒は前年度の2022年にも奈良県予選を勝ち抜き、代表に選出されましたが、その年はオンラインでの開催であつたため、彼女が全国の多くの私たちの前で自分の朗読を披露するのはこれが初めてです。「全国大会出場を実感できた今回の大会は、私にとっても本当に嬉しいものとなりました。」

NHK杯は全国で予選が行われ、その出場者は全部で12,000名を超える大きな大会です。都道府県予選を勝ち抜いた各部門約300名の中から60名が準決勝に進み、さらにそこから選ばれた10名がNHKホールで行われる決勝の舞台に立つことができます。今回朗読部門に出場した2年生1名が準決勝に進出しました。さらに昨年は文化部のインターハイと呼ばれる8月の全国高等学校総合文化祭鹿児島大会に3名、11月の近畿高等学校総合文化祭三重大会に1名が奈良県代表として出場しました。今年度もすでに全国高等学校総合文化祭岐阜大会への2名の出場が決まっております、生徒たちの活躍には目を見張るものがあります。

私自身は放送の経験がなく、技術面の指導はまだまだうまくできないのが現状です。しかし、生徒たちは互いにアドバイスをし、切磋琢磨しながら日々生き生きと活動しています。その姿はまさに「郡高生」と呼ぶにふさわしいものです。頼りない私は生徒たちから学ぶことばかりですが、校内外でのさまざまな経験を通して放送局が「入ってよかった」と思える場所となるよう、これからも微力ながら彼らを支えていきたいと思っています。皆様にも放送局の活動を暖かく見守っていただければ幸いです。

教員退職

	氏名	職名	新所属	教科等	備考
1	古川 将寿	教諭		数学	
2	殿村 有代	教諭		理科	
3	倉本 佳洋	教諭		家庭	
4	杉 雅永	養護教諭			
5	辻村美佐子	再任用教諭		地公	
6	山村 雅史	再任用教諭		地公	
7	平井 睦子	再任用教諭		数学	
8	森本 俊雄	臨時講師		英語	
9	井上理映子	臨時講師		英語	

教員転出

	氏名	職名	新所属	教科等	備考
1	乾井 学	教頭	奈良	(理科)	
2	小宮山 洋	教諭	榎原	国語	
3	山岡 昂	教諭	畝傍	数学	
4	大嶋 哲雄	教諭	高田	書道	
5	崎 朝也	教諭	香芝	英語	
6	中澤 祥恵	教諭	生駒	英語	
7	村田 真一	臨時講師	生駒	地公	
8	岸本 隆介	臨時講師	一条	地公	

事務転出

	氏名	職名	新所属	教科等	備考
1	奥田 瑞穂	臨時的任用職員	奈良北		

育児休業

	氏名	職名	期間	教科等	備考
1	山崎 寿帆	教諭	2023/3/15~2025/3/31	国語	
2	福西小百合	養護教諭	2023/1/26~2025/7/31		

教員転入

	氏名	職名	旧所属	教科等	備考
1	小林 稔	教頭	健康・安全教育課	(保体)	
2	鈴木 遥介	教諭	法隆寺国際	国語	
3	松村 璃奈	教諭	西和清陵	地公	
4	大塚いづみ	教諭	奈良北	数学	
5	相澤 大樹	教諭	大阪府立北野高校・教諭	数学	新規採用

	氏名	職名	旧所属	教科等	備考
6	山崎 杏奈	教諭	香芝	理科	
7	米田 愛	教諭	高田高校・臨時講師	書道	新規採用
8	車 梨紗	教諭	添上	英語	
9	小川 裕香	教諭	国際	英語	
10	渡辺 絹子	教諭	二階堂	家庭	
11	新子 千夏	教諭	添上	養護教諭	
12	笠原 成介	再任用教諭	法隆寺国際	地公	
13	河野 正弘	再任用教諭	法隆寺国際	理科	
14	辻井 良子	臨時講師	生駒・臨時講師	地公	

事務転入

	氏名	職名	旧所属	教科等	備考
1	山田 千紗	臨時的任用職員	法隆寺国際		

休業より復帰

	氏名	職名	旧所属	教科等	備考
1	澤 隆明	教諭	育児休業より	地公	
2	増川かおり	教諭	育児休業より	英語	
3	坊 佳紀	教諭	修学休業より	英語	

再任用教諭継続

	氏名	職名	旧所属	教科等	備考
1	阪口 浩子	再任用教諭		国語	
2	窪田 雅子	再任用教諭		地公	
3	登日 正人	再任用教諭		地公	
4	木山 康史	再任用教諭		理科	
5	石本 昇	再任用教諭		理科	

臨時講師継続

	氏名	職名	旧所属	教科等	備考
1	木村智永子	臨時講師		国語	
2	木村喜美男	臨時講師		英語	
3	太田 吏胡	臨時講師		養護教諭	

非常勤講師

	氏名	職名	旧所属	教科等	備考
1	浅田 健	非常勤講師		数学	
2	中野 源治	非常勤講師		理科	
3	芦田真奈美	非常勤講師		家庭	

令和6年度

人事異動

令和5年度 事業報告

1 本部役員会および役員会の開催

- (1) 4月22日(土) 令和4年度 第4回 役員会
- ・コロナウィルス感染対策がインフルエンザ等と同じ第5類に移行したことから改めて令和5年度総会の開催を審議し計画どおり実施することを決定した。
- (2) 6月17日(土) 第1回 本部役員会ならびに役員会
- ・令和5年度冠山会総会について開催状況を報告した。
 - ・令和5年度「冠山会だより43号」の発行を報告した。
 - ・新校長に中川照久先生をお迎えし、学校の新しい体制や創立130周年記念事業等を紹介いただいた。
- (3) 7月10日(月)～8月7日(月)
- ・隔週月曜日に事務局を開局し、会員からの問合せ等に対応した。
- (4) 12月2日(土) 第2回本部役員会ならびに第2回役員会
- ・次年度総会の準備状況を報告するとともに上半期事業の結果を報告した。
 - ・郡高創立130周年記念事業について校内幹事から報告を受けた。10月11日(水)に記念式典が挙行され本部役員が参列した。
- 【令和6年】
- (5) 2月24日(土) 第3回本部役員会
- ・令和6年度総会の開催について、本年度に引き続き卒業50年を迎える学年の年次同窓会とタイアップして開催することを確認し、予算の配分や運営の業務分担等について協議した。
- (6) 3月16日(土) 第3回役員会
- ・令和5年度事業の実施状況、とりわけ創立130周年記念事業、冠山会だより協力金の募金状況、創立130周年記念事業の概要等について確認した。
 - ・令和6年度総会については昭和50年卒業学年とタイ

アップしホテル日航奈良を会場に開催することを決定した。昭和50年卒業学年から運営企画案等について報告があった。

(7) 4月20日(土) 第4回役員会

- ・役員改選について令和6・7年度役員組織の案を提示し審議した。
- ・その他、令和6年度総会に提出する議案について審議し承認された。

2 令和5年度冠山会総会

- ・昭和49年卒業学年の年次同窓会とタイアップし、冠山会として初めて学校外の施設(ホテル日航奈良)を会場にして総会を開催した。初めての試みであり未だコロナ対策の必要性があったことから派手な演出や特別な催し等は行わなかったが、当日約120名を超える参加者を得て盛会となった。

3 冠山会歴史愛好会

- ・コロナウィルス感染拡大のため全ての行事を中止した。

4 冠山会だより(会報)の発行

- ・7月6日(木) 第43号を発行し全ての会員へ発送した。

5 清掃ボランティア活動

- ・12月2日(土) 21名の参加を得て実施し、冠山会館周辺の清掃及び校内植栽の整備活動を実施した。

6 情報交換会

- ・学校との情報交換会を10月に予定したが、創立130周年記念式典が同月に挙行されることとなり中止した。

7 冠山会入会式並びに卒業式

- ・2月28日(水) 卒業記念品贈呈式ならびに冠山会入会式が開催され会長が出席
- ・3月1日(金) 郡山高校卒業証書授与式が挙行され、会長ならびに本部役員が出席。本年度は昭和49年卒業の学年が卒業後50年を記念して招待された。

(単位: 円)

◆ 令和5年度 収支決算書

奈良県立郡山高等学校冠山会
自 令和5年4月1日～至 令和6年3月31日

収入の部

科 目	予算額	決算額	差 異	摘 要
前期繰越金	455,413	455,413	0	前年度からの繰越金
入 会 金	1,775,000	1,775,000	0	卒業生5,000円×355人=1,775,000円
活動協力金	3,900,000	3,923,224	23,224	別紙特別会計収支報告のとおり
総会参加費	150,000	124,000	-26,000	
寄 付 金	150,000	260,160	110,160	昭和46年度同窓生 昭和49年3月卒業生 他計6件
雑 収 入	9,587	1,010,000	1,000,413	事業積立金から移管1,000,000円
合 計	6,440,000	7,547,797	1,107,797	

支出の部

科 目	予算額	決算額	差 異	摘 要
会 議 費	15,000	1,631	-13,369	
総 会 費	1,000,000	1,242,650	242,650	総会
卒50周年招待費	300,000	366,393	66,393	広報費、写真代経費等
卒業記念品費	370,000	358,420	-11,580	卒業記念品費(卒業証書フォルダー)
生徒活動支援費	340,000	349,000	9,000	全国大会等出場生徒への支援
教育事業支援金	100,000	100,000	0	短期海外留学参加支援
植木剪定等事業費	40,000	48,115	8,115	植木剪定ボランティアに対する昼食代等
委 託 費	3,600,000	3,564,800	-35,200	会報の編集・発送・業務委託、振込手数料等
事 務 費	200,000	252,416	52,416	事務用品、通信費、回線使用料等
報 酬	322,000	325,000	3,000	事務補助職員報酬
慶 弔 費	110,000	105,000	-5,000	教職員・部活動への祝金等
諸 費	20,000	16,470	-3,530	
維持費等積立金	0	0	0	冠山会館管理・周年記念準備積立金
予 備 費	23,000	0	-23,000	
合 計	6,440,000	6,729,895	289,895	

収入決算額 7,547,797円
支出決算額 6,729,895円
差引残額 817,902円

◆ 特別会計収支報告(冠山会会報発行事業)

冠山会会報発行協力金収入			会報発行・発送業務委託料支出	
収入内訳		金 額	サトウ委託費(会報発行経費)	
郵便振込金分		1,380,404		3,564,800
コンビニ振込入金分		2,540,820		
現金での入金分		2,000	収入合計	3,923,224
寄付後返金		0	支出合計	3,564,800
合 計		3,923,224	差引額	358,424

※358,424円は一般会計へ繰り入れます

◆ 令和5年度 冠山会館維持積立金収支報告書

科 目	収 入 の 部			支出の部		収支の部	摘 要
	前年度末累計	本年度積立金	利息	合 計	本年度支出金	次年度繰越金	
積立金	4,230,607	0	81	4,230,688	0	4,230,688	

◆ 令和5年度 事業積立金収支報告書

科 目	収 入 の 部				支出の部		収支の部	摘 要
	前年度末累計	本年度積立金	利息	合 計	本年度支出金	次年度繰越金		
積立金	7,835,778	0	50	7,835,828	3,700,000	4,135,828		創立130周年記念事業協力金運営費に拠出

◆ 令和5年度 冠山会名簿作成に係る収益収支報告書

科 目	収 入 の 部				支出の部		収支の部	摘 要
	前年度末累計	本年度積立金	利息	合 計	本年度支出金	次年度繰越金		
積立金	5,226,147		0	5,226,147	0	5,226,147		名簿発行収益

◆ 財 産 目 録

科 目	金 額	摘 要
普通預金	817,902	南都銀行 郡山支店 普通預金(運用口座)
定期預金	4,230,688	南都銀行 郡山支店 定期預金(積立金口座)
普通預金	4,135,828	南都銀行 郡山支店 普通預金(積立金口座)
普通預金	5,226,147	南都銀行 郡山支店 普通預金(積立金口座)

令和6年3月31日現在

監 査 報 告

本日、上記の決算書について会計監査を執行しました結果、預金、帳簿、及び関係書類は符合し、正確に処理されていたことを認めます。

令和6年4月4日

会計監事 西本 功
会計監事 杉井 辰彦

令和6年度 事業計画

1 本部役員会及び役員会の開催

令和6年	6月11日(火)	第1回	本部役員会
	6月29日(土)	第1回	役員会
	9月10日(火)	第2回	本部役員会
	9月28日(土)	第2回	役員会
	11月30日(土)	第3回	本部役員会
令和7年	12月21日(土)	第3回	役員会
	2月18日(火)	第4回	本部役員会
	3月15日(土)	第4回	役員会
	4月8日(火)	第5回	本部役員会
	4月26日(土)	第5回	役員会

2 令和6年度 冠山会総会

日時 5月12日(日) 11:00開会
会場 ホテル日航奈良

3 冠山会だより(会報)の発行

7月中旬「冠山会だより第44号」を発行し、全会員へ発送

4 学年同窓会への開催支援(新規)

各年代の開催する学年同窓会に対して、開催奨励金として、冠山会から一開催に5万円を補助

5 冠山会オープンゴルフ大会(新規)

日時 令和6年10月21日(月)
9:47～スタート(アウトコース)
会場 ジャパンクラシックカントリー倶楽部 キングコース
対象 65歳以上のシニア・グランドシニア
申込み方法 別記参照

6 学校との情報交換会

10月中旬、本部役員と学校関係者との情報交流を開催

7 冠山会クリーンアップ活動(旧名称:清掃ボランティア)

日時 令和6年11月30日(土) 9:00～
場所 冠山会館～裏門周辺及び中庭
申込み方法 別記参照

8 冠山会入会式並びに卒業式

令和7年2月28日(金) 卒業記念品贈呈式並びに冠山会入会式
令和7年3月1日(土) 卒業証書授与式
昭和50年卒業の学年同窓生への招待

◆ 令和6年度 冠山会予算書

奈良県立郡山高等学校冠山会

自 令和6年4月1日～至 令和7年3月31日

収入予算額	6,758,000円
支出予算額	6,758,000円
差引過不足額	0円

収入の部

(単位:円)

科目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	摘要
前期繰越金	817,902	455,413	362,489	前年度からの繰越金
入会金	1,770,000	1,775,000	-5,000	卒業生 5,000円×354人= 1,770,000円
活動協力金	3,900,000	3,923,224	-23,224	会報発行協力金
寄付金	260,000	260,160	-160	
雑収入	10,098	1,010,000	-999,902	広告収入等
合計	6,758,000	7,423,797	-665,797	

支出の部

(単位:円)

科目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	摘要
会議費	10,000	1,631	8,369	役員会、年次幹事会、活性化部会開催経費
総会費	1,000,000	1,242,650	-242,650	総会、懇親会開催経費、講師謝礼等
卒50周年招待費	370,000	366,393	3,607	卒50周年(昭和50年度卒)招待経費
卒業記念品費	370,000	358,420	11,580	卒業記念品贈呈費用
生徒活動支援費	350,000	349,000	1,000	全国大会等出場生徒への祝金、支援金
教育事業支援金	100,000	100,000	0	リーダー育成海外研修事業への支援
植木剪定等事業費	50,000	48,115	1,885	植木剪定ボランティア運営費等
委託費	3,800,000	3,564,800	235,200	会報発行委託料
事務費	253,000	252,416	584	事務用品、運送料、通信費等
報酬	325,000	325,000	0	事務補助報酬(月額20,000円×16.25ヶ月分)
慶弔費	85,000	105,000	-20,000	教職員への祝金、香料等
諸費	20,000	16,470	3,530	会長、副会長祝賀会等参加費
維持費等積立金	0	0	0	冠山会館維持、周年記念準備積立金、事業積立
予備費	25,000	0	25,000	
合計	6,758,000	6,729,895	28,105	

● 郡山高校 ● インターネットでホームページを開設

奈良県立郡山高等学校の公式サイトです。

<http://www.e-net.nara.jp/hs/koriyama>

冠山会会員の皆様へお願い

住所変更等の異動、会報への寄稿や写真提供がありましたら

冠山会事務局(0743-55-0556)まで
FAXにてお知らせください。

※電話での対応はできかねますので、予めご承知ください。



令和5年度
冠山会寄附金

右記の皆様よりご寄附を
いただきました。
ありがとうございました。

昭和46年度同窓生より寄付	91,701
匿名希望	3,000
昭和30年郡山高校卒業生有志会より寄付	14,459
昭和58年卒業生有志一同より寄付	30,000
早稲田大学校友会 今澤幸代氏より寄付	30,000
昭和49年3月卒業生より寄付	86,000
昭和50年3月卒業 大西弘章氏より寄付	5,000
合計	260,160

編集後記

冠山会総会が奈良で開催されるようになり今年が二回目。
JR奈良駅を降りると去年以上に外国人の多さに驚きます。
若草山では入山ゲートに外国人の列、東大寺にも、春日大社にも、奈良公園にも大勢の外国人観光客、あまりの多さに「これは日本?!」と思うほどです。
コロナ前のような人の動きが活発になっているのを感じます。
「冠山会だより」にもたくさん同窓会の記事や案内が寄せられるようになりました。あちらこちらで待っていたように同窓会が開催され、旧交を温めている様子が目に浮かびます。編集する側も原稿を読みながら幸せな気持ちになります。
これからも、冠山会会員相互の情報を発信してまいりますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。
(副会長 阪本裕紀子)

〈冠山会親睦ゴルフ会〉のご案内



- 日時 令和6年10月21日(月)(雨天時10/28(月))
午前9時47分～スタート(8分間隔)
(会場へはスタート時間の30分前にお越しください。)
- 対象 年齢65歳以上のシニア・グランドシニア
- 場所 ジャパンクラシックカントリー倶楽部
キングコース
〒518-1326 三重県伊賀市横山下田17-1
TEL 0595-42-0050
- 内容 コンペ形式ではなく、一日気軽に楽しみながらのラウンドです。
お一人 プレー料金 約11,000円(昼食付き)
参加者全員に冠山会から参加賞贈呈
- 申込み 官製はがきまたは私製はがき、またはFAXにより、「冠山会親睦ゴルフ会」参加希望、お名前(連名可)、連絡先、人数等をご記入いただき、お申し込みください。
〒639-1011 奈良県大和郡山市城内町1-26
奈良県立郡山高等学校 冠山会事務局 宛て
FAX 0743-55-0556
- 申込み締切 令和6年8月31日(土)